

作物名 **こかぶ** (アブラナ科)

J A 2022 版

標準作型

○印・播種(種まき)

□印・収穫

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき			○		□							
秋まき							○	-----○	○	□		

栽培のポイント

間引きを遅れない。初夏・初秋の高温期はス入りが早いので早めに収穫する。

品 種 春まき (3月) : CRもちばな(タキイ)、ゆきわらし (カネコ)
夏まき (7月~8月) : CRもちばな(タキイ)
秋まき (9月) : CR白涼 (トーホク)、白鷹 (武蔵野)

畑の準備 苦土石灰 (10kg/a)、堆肥 (100kg/a) を2週間前までに投入し、15~20 ㌢の深さによく耕しておく。

元 肥 全面に施してよく土と混ぜておく。

(1 a 当たり使用量)

ホウ素入り化成高度 280 号	10 kg	播種 2~3 日前
-----------------	-------	-----------

播 種 (種まき) ばら蒔きの場合は、うね全体に撒き、0.5 ㌢ぐらいの厚さに覆土しておく (発芽を揃えるために床の表面を丁寧にならしておく)。
条まきか点まきは条間 12 ㌢で行う。点まきの場合は、株間 10~15 ㌢で、一箇所 2~3 粒まきする。

病虫害防除 キスジノミハムシ幼虫の食害痕は商品価値を著しくおとすので、播種時に土壌施用剤を散布して防除する。
発芽直後から、コナガ・アブラムシ類、キスジノミハムシ成虫などの害虫に食害されるので、播種後は、ただちに寒冷紗 (0.8 ミリ目合い以下) などでトンネル被覆を行う。
根こぶ病は、酸性土壌の排水不良畑で発生が多いため、石灰資材の投入による酸度矯正を行い、排水対策を行う。

間引き 条まきの場合、発芽後に 7~8 ㌢間隔、大きい株では 10 ㌢間隔になるように間引いていく (間引き方 : 発芽後 7~10 日間隔で 3 回くらい間引く)。

追 肥 (1 a 当たり使用量)

NK化成 2 号	2 kg	適宜
----------	------	----

収 穫 根の直径が 4~5 ㌢ぐらいに太ったところが収穫の適期となる。
収穫作業はコカブの水分が高まる早朝に行う。
コカブは一年中栽培できるが、8月下旬から10月上旬はカブの生育にもっとも適した温度条件で、高品質が期待できる。収穫適期が5日前後と短いので播種時期を少しずつずらして栽培する。9月上旬まきで 40~45 日・9月下旬まきで 55~70 日後に収穫適期となる。